

チャレンジプラン

魅力・活気ある日南町へ

作成年月
作成者

平成21年3月
荒金敏文

作成一部変更年度
作成者

平成24年度
荒金敏文・裕樹

チャレンジプラン

(H25. 3作成)

作成者 荒金敏文・裕樹

事業主体 荒金敏文・裕樹

はじめに

現在の農業状況を見ると、日南町はもとより全国的に若者の農業従事者がいない、耕作放棄地・荒廃地等が急激に増加している、といった深刻な状況にあります。またこのほど農業が大打撃を受けるであろうとされているTPP参加で、益々不透明さを増してきました。

私は、農業を始める前の21年間（S60～H18年）は、
として農業関係の人と共に仕事をしてきました。その時に鳥取県農業の現実を目の当たりにして、何とかしなければいけないと思い、
でこの問題を少しでも解決していくよう活動してきましたが現実が悪くなる一方でした。

私は平成18年4月から農業専従者として
で働き始めました。いち日南町民として様々な問題を一つでも解決出来るよう、県内農業者、JA、町、県職員の方たちと共に取り組み7年目が経過しました。

この期間で考えるようになったことは、この地に生き、農業を受け身ではなく積極的に働き生産性を上げていく事が必要と感じるようになり、土地・地域を守る事が私達のこれからの使命であると思うようになりました。今現在この考えは益々強いものになってきています。又農業を始めたのは、これから一人でも多くの若者が日南町で農業に取り組んでいってもらうことも大切な役目だと思ったからです。

我が家では、県外で
をしていた裕樹
が、平成20年6月に帰り、農業を生涯の仕事と決め、2人で一生懸命働いています。認定農業者にもなり今まで頑張ってきたのは、町や農協等の後押しがあつたことと感謝しています。

今回フロントローダーを要望しますが、これを導入することにより我が家の経営改善、発展に重要な役割を持つものと思っています。後継者・裕樹が将来に向けて夢が持て、そして安心して経営に取り組めるよう、農業生産基盤をしっかりと築いていきたいと思っています。

1 生産経営の現状・課題

1) 現状（24年）

①経営規模

- ・労働力：敏文・裕樹の2人（前回作成時は2.5人）
- ・作付面積：自作地+借地 460a（同425a）
- ・繁殖和牛：4頭（同5頭）
- ・放牧地：130a（同130a）

②保有機械等

- ・トラクター2台（30PS・17PS）
- ・田植機 4条 1台
- ・ねぎ管理機 3台
- ・運搬車 1台
- ・ねぎ堀取機 1機
- ・白ねぎ育苗ハウス 2棟

2) 課題

- ① H21年時までは、トラクターは17PSと能力が低かったために、白ねぎ作業の春期においての重要な耕運、整地、定植作業に支障をきたしていた。特に整地作業には時間がかかっていた。その結果、白ねぎの適期定植が出来ずその後の生育に影響が出ていた。

白ねぎ定植後に水田作業に移行するが、定植の遅れにより水田の耕運、荒代、植代が十分に行うことが出来ず、結果的に田植え後の稲の生育に影響が出ていた。

H 2 1 年のトラクター 3 0 P S 導入によってそれらの課題は大きく改善された。しかしほ場整地（均平作業）については解消出来ずに至っている。

- ② 栽培面積拡大等のためには機械化が必須である。そのためには定植機など町内で所有されている機械を有効利用して省力化を図る計画であったが、活用出来るところまでには至らなかった。またほ場も借地がほとんどで、状態も決して良いとは言えず規模拡大に支障をきたしていた。

トラクター導入年に、ねぎ移植機（リース事業）とねぎ掘取機も同時に導入した。その結果規模拡大が出来て効果は大きかった。しかしほ場整地（均平）についてはなかなか出来ず、希望とおりの規模拡大にはつながらなかった。

- ③ 自家生産をしている堆肥についても軽トラへの積み込みや、ほ場での散布も人力で行っていたため、多大な労力を費やしていた。

2 生産経営等の改善内容（目標）と導入予定機械の効果

1) 改善内容（目標）

①白ねぎ

- 1) 育苗とほ場整地をしっかりと行い高価格が見込める 8 月上旬からの出荷を目指す。
 - 2) 肥培管理技術を向上させ 2 L 比率を向上させる。
 - 3) 共同選果場出荷で作業時間削減及び能率化の向上を図る。
- これらの項目を重点目標として掲げ経営の充実を図る。

②稲作

- 1) 水管理の徹底、肥料・農薬の適期使用に努める。
- 2) 現在の稲作面積（2 1 0 a）を維持して、1 等比率の向上を目指す。

③和牛

- 1) 冬期および分娩時期の飼養場所は、ゆきんこ牛舎（町所有）を活用していく。
- 2) 夏期の飼養は耕作放棄地での放牧を行なっていき、今後も有効利用していく。
- 3) 放牧面積は平成 1 9 年 3 0 a、2 0 年 6 0 a、2 2 年からは新たな放牧地を活用している。すべて耕作放棄地の借地である。放牧飼養については地域の人達の理解も得られてきていると思っている。今後も、放棄されている土地の地権者や、地元の方々の理解と協力を得ながら放牧経営を確立していきたい。

阿毘縁の現状をみると我が家でも借入地が増える傾向にあり面積拡大は可能な状況である。今後規模拡大等含めてどのように対応していくか、地域の人と共に考えていかなければいけない。

2) フロントローダー導入の効果

- ① 白ねぎほ場が均平でないために、部分的に水たまりが出来やすい状態であるため、その箇所は生育が不揃いになっている。ローダーの導入によってこれが解消出来白ねぎ栽培に適した良いほ場となる。
- ② 堆肥については従来は、軽トラへの積み込み・ほ場での運搬車（散布作業）への積み込みはすべて人力で行っている。従って労力、時間がかかっていたため大きな負担となっている。この作業もローダーによって大きく改善される。
- ③ 白ねぎ育苗ハウスまわりの除雪にも利用でき、ハウスを雪害から守れる。

3 目標達成に向けての取り組み（年次別の導入計画）

1) 機械等

単位：千円

機械・施設	能力	導入方法	事業費	導入計画（年）					
					21	2	23	24	25
トラクター	30Ps	チャレンジプラン	3,500	計画	○				
				実績	◎				
ねぎ堀取機	アタッチメント	"	400	計画	○				
				実績	◎				
フロントローダー	アタッチメント	がんばる農家プラン	700	計画		○			○
				実績					
トラック	1.5t	チャレンジプラン	2,000	計画		○			
				実績					
パゾライザー	アタッチメント	チャレンジプラン	300	計画		○			
				実績					
車庫 (農機庫)	50㎡	チャレンジプラン	1,200	計画		○			
				実績					
チャレンジプラン合計			8,100	計画	3,900				700
				実績	3,900				

※ ○は計画 ◎は実績

4 支援事業の内容

単位：千円

		21	22	23	24	25	合計
総事業費合計		3,900				700	4,600
事業費	県	1,300				231	1,531
	町	650				119	769
	事業主体	1,950				350	2,300

5 作目の年次別計画

単位：a

年 次		21	22	23	24	25
稲 作	自作地	100	100	100	100	100
	借入地	220	210	190	150	110
	小計	320	310	290	250	210
白ねぎ	自作地	50	50	50	50	60
	借入地	30	50	50	70	70
	小計	80	100	100	120	130
WCS	自作地					
	借入地				90	120
	小計				90	120
放牧地	借入地	60	100	130	130	130
合 計		460	510	520	590	590
和 牛 (頭)	繁殖牛	4	4	4	4	4
	販売子牛	4	4	3	3	2

6 他事業での導入計画

1) 繁殖牛

繁殖牛	導入頭数	調達方法	導入費 (千円)	導入計画(年)		
				25	26	27
	2	自己資金		○	○	
合計			600	300	300	

2) その他機械等

機械等		調達方法	導入費	25	26	27
ねぎ管理機	1台	自己資金	350			○
合計						350

※ 自己資金；農林公庫資金・近代化資金・改良資金等